



2021年度 小学校英語教育センターシンポジウムの報告

2021年度の小学校英語教育センターシンポジウムが、10月16日に開催されました。会場での参加者が43名、オンラインによる参加者が115名の、合計158名と、多くの方々に参加いただきました。今回は、学習指導要領の改訂をうけ、小学校中学年に外国語活動が早期実施、高学年に教科としての外国語が導入されたことに引き続き、今年度より中学校において新しい外国語教育が実施されたという背景のもと、「新しい外国語教育が目指す指導と評価の在り方とは一小中の接続を意識して一」というテーマを掲げて、文部科学省初等中等教育局視学官の直山木綿子先生の基調講演とともに、よりよい実践を求めて取り組まれている先生方にそのご報告をいただきました。



【会場の様子】

まず、鳴門市板東小学校の坂田美佳先生より「コミュニケーションを図る素地及び基礎となる資質・能力を培う小学校外国語教育—豊にかかわり 伝え合い 学び合う 学習の創造—」と題して実践報告をしていただきました。外国語教育の学習評価が実質的なものとなるよう、評価計画を体系的に設定するとともに、児童の自己調整を丁寧に支援する取り組みがとても印象に残りました。評価のあり方に課題を持たれている先生方にはとても参考になったと思います。



【直山 木綿子 先生】

次に、佐那河内村立佐那河内小中学校の松本美穂先生、豊栖牧先生、段本みのり先生より「地域の特色を生かした外国語教育—小中のつながりを意識して—」と題する実践報告をしていただきました。段階的に文字学習を促す「中1スタートカリキュラム」や、地域の特色を題材とし、外国語教育を通じて地域の理解から発信へと発展させることで小中連携を実現する取り組みが印象的でした。特に、言語は伝えたい思いがあつて本物となるということを実感しました。

そして、直山木綿子先生からは、「全面実施で見えてきた小学校外国語教育の成果と課題を踏まえて、今後取り組むべきこと」と題する講演を行っていただきました。小学校外国語教育の成果と課題に加え、「言語活動」の意味について丁寧に熱くご説明いただき、本来の「言語活動」の理念を再認識する有意義な機会となりました。

新しい小学校外国語教育が始って2年目となり、本年度より中学校でも新しい外国語教育が始まりました。そのような背景をふまえて、今回のシンポジウムでの学びを私なりに総括すると、まずは「言語活動」の理念について共通理解を図ることで外国語教育の「小中連携」の基盤が確立すると思います。そして、地域や学校の特色・特徴を生かした言語活動をデザインすると同時に、主体的・対話的で深い学びの「学習評価」のあり方の工夫を共有していくことで、よりよい外国語教育実践が展開していくものと考えます。



【質疑応答の様子】

ご登壇された先生方、また、会場あるいはオンラインで参加いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。ありがとうございました。
(センター所長・教授 山森 直人)





実践研究支援事業



本センターは、新しい外国語教育に取り組む小学校の実践をサポートするため、平成29年度より「実践研究支援事業」を行っています。令和2年度からは、徳島県小学校教育研究会の指定校であり、「コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を培う小学校外国語教育 ～豊かにかかわり伝え合い 学び合う 学習の創造～」をテーマに研究を進める鳴門市板東小学校の実践を、「授業づくり」や「評価」の面から、様々な形で支援させて頂いています。また、本センターは、同校が研究成果を発表する「徳島県小学校外国語教育研究会」にも協賛し、「ハイブリッド型」（対面とオンライン参加）となる大会の円滑な運営に向けて、環境や技術面でのお手伝いもさせて頂きました。



【オンラインでご講演いただいた大城賢先生】

令和3年11月19日（金）に同大会を本学にて開催。琉球大学の^①大城賢先生や鳴門市を除く徳島県内の先生方がオンライン参加となりましたが、大会は、中・高学年の分科会、板東小学校からの研究発表、大城先生によるご講評やご講演と続き、盛況の内に終了しました。「言語活動」と「指導と一体化した評価」の在り方を中心に終始熱い意見が交わされ、新しい小学校外国語の目指すべき方向性を、全ての参加者で共有する時間となりました。

本センターは、今後も一層地域の皆様との連携を深め、新しい小学校外国語教育を創るお手伝いができればと考えております。
(特命准教授 佐藤 美智子)



【板東小学校の取組発表】



【3年生の授業（webにて公開）】



【5年生の授業（webにて公開）】



「小学校英語教育センターでは、附属小学校との共同研究を進めています」



7月3日、鳴門教育大学附属小学校の教育研究会外国語部会に、共同研究者として参加しました。附属小学校では独自の理論として「生活経験を生かすことができる」「他教科の学びを生かすことができる」という視点で教材を選択し、「価値ある課題を設定する」ことが大切にされています。まさにこのことが問題発見力、学習構想力、情報活用能力、自己表現力といった自己学習力を育み、自律的学習者の育成へとつながっていくものと考えます。

本時の授業は、附属小学校の先生方のことを、参観者に紹介するという活動でした。後にオーストラリアの子どもたちに向けて発表するというゴールに向かって本時が位置付けられています。"He / She can～."の表現を用いて内容を練り直す中で、目的・場面・状況によって、話す順序や構成を工夫しようとする児童の姿がありました。さらに友達と比べたり、互いの意見を生かしたりしながら自己の学びを調整する様子も見られました。指導者が、一人一人の活動を細やかに見取り、個に応じた支援を積み上げてきた成果であると感じました。また、しっかりした教材観や指導観に裏付けられた授業であったとも実感しました。

研究会に参加された先生方のご協議や大阪樟蔭女子大学の兼重昇先生によるご講演等、研究が深まった時間でした。常に学習指導要領に立ち返り、外国語教育に真摯に取り組まれている附属小学校の先生方の姿に、今後も共に学ばせていただこうと襟を正す思いでした。
(コーディネーター 竹内 陽子)



【5年生の授業の様子】



【兼重昇先生によるご講演】